

令和元年度 第1回石巻市市民公益活動推進委員会 会議録

○開催日：令和2元年1月29日（水）14：00～16：00

○場 所：市役所 第二臨時会議室

○出席者：委 員／佐々木万亀夫委員、犬塚恵介委員、大林健太郎委員、鈴木平委員、佐々木義明委員、阿部敬子委員、本田亨委員、北川進委員、平塚信一朗委員、木村正樹委員
（委員11人中10名出席）

市 側／久保復興政策部長（市長代理）

事務局／三浦復興政策部次長、佐藤地域協働課長、阿部課長補佐、栗原主任主事、宮川主事

※当日配布資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・【資料1】市民公益活動団体との協働に関する基本方針
- ・【資料2】石巻市市民公益活動団体との協働に関する条例

1. 開会

2. 委嘱状・任命状交付

3. 復興政策部長あいさつ（市長代理）

要旨・東日本大震災からの復興に際しては市民公益活動団体に尽力いただいた

- ・復興期間終了後、人口減少など石巻市は様々課題に直面する
- ・課題を乗り越えるためには市は様々な主体と協働することが不可欠
- ・復興において力を発揮した市民公益活動団体は協働の最も重要なパートナーである
- ・本委員会での議論にて、協働が一層推進されることを期待している

4. 出席者紹介

5. 議事

(1) 会長及び副会長選出（仮議長：久保復興政策部長）

委員より事務局案の提示を求める意見があり、事務局案（会長：佐々木万亀夫委員、副会長：犬塚恵介委員）が示された。同案は意義なしで承認された。

(2) 市民公益活動団体との協働推進に関する基本方針について（以下、佐々木会長が議長として進行）

【資料1】【資料2】の策定経緯や内容について事務局より説明

〈質疑応答〉

・鈴木委員：市民公益活動への参加が市民の責務となっているところに若干のひっかかりがある。本来ボランティアに基づくものが責務となっているところに意図があれば知りたい。

事務局：この表現については難しいところもあり、本基本方針策定時も議論に挙げた。担い手不足等の背景もあり、市民は受益者である一方で、参加して活動を支える必要もあり、強めの表現となっている。

・佐々木委員：第2章協働推進の方向性4. 協働の検証・評価・見直しについて、何を指標としてどう評価するのか具体的な検討はしているのか。

事務局：これから本委員会で議論願いたい。
佐々木委員：検証・評価・見直しが必要だという認識で良いか。
事務局：そのとおり。

- ・佐々木委員：第3章協働推進への取組みで、市民への理解と参加を促すとあるが、具体的に市民の協働をどう得られるか、一般市民の理解や参加もこれから行なっていくのか。

事務局：一般市民の参加は永遠のテーマだと思う。日常生活の中でどう協働を進めるかはこれから取り組んでいく大きな課題。協働はこうあるべき、こうしなければいけないというものではない。税金を投入する上でも検証・評価は必要。現在総合計画の策定作業をしているが協働は大きなテーマである。

- ・犬塚委員：推進への取組みは市と市民公益活動団体が各々の責任に基づいて進めていくものだと思う。この委員会では、基本方針に基づいて各種施策、ルール・マニュアルなどを議論していくのと思うが、そのためには想定の上ではなく、今ある実例をモデルに選んで進めていくことを想像する。そういった際に、市と市民公益活動団体がどこでどう協働しているのかを把握する必要と、それに対して検証・評価・見直しをする必要があると思う。現状、市と市民公益活動団体の協働実例を把握する手段はあるのか。

事務局：協働の形態は8パターン例示している。これについての現状把握としては、委託に関しては2年ほど前に全庁的に調査して情報収集したことがあったはずだが、その他については今のところ情報がないので、これから情報収集していく。

犬塚委員：この委員会は2年間の任期であり、その中で復興期間の終了があり、ひとつの区切りでもあり、大きな壁でもある。1年目で仕組みづくりをして、2年目でブラッシュアップして落とし込めれば良い。協働のリスト化は大変な作業だと思うので、協力しながら早めに取り組んでいければ良い。

- ・大林委員：協働推進の方向性について、協働を推進するための環境整備とあるが、具体的な支援策はあるのか。また、協働の形態について、事業協力・協定および委託の具体例があれば示してほしい。

事務局：環境整備については、石巻市NPO支援オフィスの運営が挙げられる。協働の中で行なえる支援をしていきたい。協定書を交わしての実例は把握していない。

事務局：協定は災害時における協定等様々なものがあるので整理する。委託についても、被災者支援や福祉のスキームの中でお願いで担い手になってもらっているケースがある。公助から共助への仕組みへ切り替える視点が必要と考えている。資料は全庁的に調べ、この委員会で議論していければと思う。

鈴木委員：この会議自体が、行政と市民公益活動団体が平等という立場であると思う。我々から情報提供できる部分もあるので、一緒になって進めていければと思う。

佐々木会長：協働の検証というのは、まさにこの場にデータを提供して評価し場合によっては見直すこと。

佐々木委員：現状の把握が非常に大事。基本方針ができて、NPOの協力、市民の協働を促し、現状に比べてこれだけ評価できたという証が示せれば。そのための基準が必要。今は色々整理できていない状況だが、令和元年度を基準年としてスタートできればと思う。

佐々木会長：データを整理してこの場に提供してもらい、それがスタートだと思う。

- ・平塚委員：協働の中の支援という表現があったが、今後復興財源も切れる中で金銭的な支援が難しくなる環境となる。支援はこれまでと違う支援という認識となるか。

事務局：市民公益活動団体の財源が大変な時期が目の前にきているが、その分を市が支援する財源はないので、自立していただくための支援になっていく。

(3) その他

各委員より自由意見が出された。

- ・犬塚委員：この委員会は開けた場所にしてはどうかと提案したい。
事務局：公開、非公開は後程伺うつもりであった。前回は公開という形で進め、市HPにも掲載した。個人情報扱うこともなく非公開にする理由もないので、委員の了承を得られるのであれば公開で良いと考える。
- 鈴木委員：スケジュールやアジェンダにもよるのではないかと。
事務局：デリケートな課題を扱うこともあるということを鑑みて、原則は公開とし、内容によっては都度判断するということがよいか。
- 佐々木会長：原則公開を進める。
- ・大林委員：市民憲章を基本の基本として大切にしながら進められればと思う。
- ・鈴木委員：感想になるが、子ども若者支援を進めていて課題ばかりだが、市民に如何に参加してもらうかは悩み。例えば仙台だと大学が多く学生たちが集まるが、石巻市は専修大学があるが全体的に見て学生が多いわけではない中で、市民のボランティアな力で協働してうまくやっていくことが現場感としても重要と感じているので、現場からの視点で発言していきたいと思う。評価については日本全体のNPOでも議論されていること。この頃、NPO分野の業務が市場化し一般競争入札でコストだけで判断されることも散見する。石巻市における評価はどういうものとするかを意見交換しながら進められれば協働を推進することになると思う。
- ・佐々木委員：みんなで、豊かに暮らし続けられる、住みよいまち「石巻」を目指しましょう！とあるが、協働推進が住みよい街につながるだろうと期待する。
- ・木村委員：条例は平成17年の合併前からある。石巻市は条例整備からはじめ環境を整えつつあったが、合併もあり、震災もあり、10年近く止まってしまっていた。日本全体のNPOを取り巻く制度や休眠預金等の動きがある中で、基本方針に基づいて市民公益活動団体との関係が重要になってくると思う。
- ・平塚委員：市民公益活動団体＝パートナー。協働の実態に基づいてキッカケを話していければと思う。委員会の方向性が見えてきたと思う。
- ・北川委員：以前より「具体的にどうするか」ということは議論をしていた。方針は良いものが出来たと思うので、ここからが肝心と改めて感じた。難しい段階だが手伝えればと思う。協働の先に何があるのかを大事にしていきたい。
- ・本田委員：これからの協働の在り方を念頭に現状把握して検証等して追究していければと思う。
- ・阿部委員：市の職員としてはじめて参加させていただいた。基本方針についても理解が達していないので、自分の中で整理して参加したいと思う。
- ・事務局：協働のための協働、委員会のための作業にならないよう努めていきたい。

6. その他

事務局より事務連絡

なお、次回開催予定は令和2年4～5月頃

7. 閉会